日本ユーラシア協会とは
旧ソ連邦に住む諸国民との
相互理解と友好を進める
（旧）日ソ協会の統一した名
称です

日本とユーラシア
JAPAN-EURASIA SOCIETY

愛知版　No.672
（ニュース、投稿は下記へ）
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
日本ユーラシア協会愛知県連合会
電話　052-508-4368

メールアドレス　eurasia_aichi@yahoo.co.jp　ホームページ　https://eurasia-aichi.beet.jp　<<ＨＥＴ　ＶＯＪＮＥ!>>

合唱団ミール、ワールド・コラボ・フェスタ2025に出演

10月26日（日）、今年で22回目となるワールド・コラボ・フェスタ2025に出演しました。愛知県国際交流協会を事務局として実行委員会形式で行われるこの催しのテーマは、“持続可能な社会の実現のため、中部地域の国際交流・国際協力・多文化共生・SDGsへのとりくみや活動を広げ、市民、NGO・NPO、企業、行政が協力して、「学び、考え、行動する場」を作り上げる”というものです。

「ユーラシアの心の歌をあなたに」と題して、ミールは以下の５曲を演奏しました（指揮は河辺泰宏先生、ピアノ渡部真理先生）。

「さとうきび畑」第二次世界大戦の末期、最も激しい地上戦となった沖縄戦の幾多の戦死者の無念の声を「ざわわ ざわわ ざわわ」と奏でるさとうきびの葉の音に重ねて歌いました。3番はロシア語で。

「百万本のバラ」ジョージアの貧しい画家の恋物語。早いテンポに苦労しましたが叙情豊かに歌うことができました。

「ウクライナへの祈り」ウクライナの第二の国歌として認められている愛国的な讃美歌です。ウクライナの戦争終結を願いながらウクライナ語で歌いました。

「祖国」他民族の圧政に苦しみながら生き抜いてきたラトヴィアの人々の誇りを示す歌です。パウルスは「百万本のバラ」の作曲者でもあります。

「ふるさと」日本人の心の歌。３番はロシア語で歌いました。

世界のあちこちで戦火がやまないこの現実。一人一人が隣人を思い、それぞれの文化を理解しリスペクトしあって、共に生きる条件を作っていくことが、今の日本に生きる我々の課題でもある、と歌いながら思ったことでした。

ミールは、これからも「世界」と「平和」のために歌い続けます。　**（小林身哉）**

12月7日（日）は、第27回ユーラシアフェスティバルにおこしください
11時～16時　愛知民主会館２階ホール

この頃は日が落ちるのも早くなり、街はきらびやかなイルミネーションに彩られ、長く閑かな夜を楽しむ季節がやってきました。ロシアでは「暗くて長い冬」を過ごすための知恵として、豊かな精神文化（とウォッカ）が育まれたというのが私の持論ですが、そのような文化芸術を身近に体感していただくまたとない機会として、今年もユーラシアフェスティバルが開催されます。

今回で27回目をむかえるこのフェスティバルは、ロシアのクリスマスのお祭り「ヨールカ祭」を少しだけさきどりして、会員同士が交流できるアットホームなお祭りにしようと、現在、実行委員会を中心に準備をすすめております。

会場では11時から黒パンやグルジアワイン、ユーラシアの雑貨など、他では手に入りにくい物品の販売も行います。お昼時で小腹が空いたら、ロシア人シェフの作ったピロシキと紅茶でお腹を満たし、そのあとは、大矢博之さんとけんちゃんの楽しい腹話術、ロシア語の歌やお話、松坂仁さんのフルートコンサートなど多彩なプログラムをお楽しみください。最後はビンゴ大会で豪華な景品を当てて持ち帰りましょう。参加費は、会員３００円、一般５００円、中学生以下、障がい者は無料。

新入会員にはピロシキ贈呈（３５０円／個）の特典もあります。

詳細は、折り込みチラシをご覧下さい。

理事長代行　中山　顕

ユーラシア物産案内

ユーラシアフェスティバル当日、次のような物産を販売しています。数に限りがありますので、お早めにお買い求めください。

黒パン
シンデレラ
シンデレラ（ハーフ）
ワイン各種
マトリョーシカなど

報告
第86回ロシア語能力検定試験が行われました

10月25日、26日に第86回ロシア語能力検定試験が実施されました。知民主会館で1級2名、3級11名の方が受験されました。

10月25日（土）は名古屋国際センターで実施され、2級9名、4級12名の方が受験されました。

合格発表は12月16日（火）です。

受験されたみなさまの合格をお祈りします。

10月26日（日）は愛

理事長代行　中山　顕

投　稿

カザフスタンを訪問して⑦

教育省できく教育の現在地

初日に訪れた教育省インクルーシブ・特別支援教育局でのひとときが、今も印象に残っています。　会議室に通され、担当者の話に耳を傾けると、カザフスタンがどのようにこれからの学校教育、特にインクルーシブ教育を展開しようとしているのかが見えてきました。「快適なインクルーシブ教育環境」を整えることが国家の方針として掲げられていること、学習に正で特別な配慮を怠った学校長に責任が及ぶようになったこと、さらに２０２３～２０２９年の教育発展構想で、すべての学校に安全で包括的な学習環境を整える目標が掲げられていることが語られました。

教育省担当者（向かって左、真ん中に筆者）と撮影

担当者の説明によれば、インクルーシブ教育とは、障害のある子どもに限らず、学習につまずいたり心に不安を抱えたりする子ども、さらには移民や貧困家庭に育つ子どもなど、多様な子どもたちが一緒に学ぶことを目指すものだとカザフスタンでは理解されています。支援の仕組みは三段階に整理され、まずは教室での対応、次に学校全体での支援、そして必要に応じて校外の専門機関が関与するという流れです。ユニバーサル・デザイン・フォー・ラーニング（UDL）の導入も進められており、一人ひとりに合わせた学びを届けたいという思いが伝わってきました。

時間を遡れば、ソ連期には障害のある子どもは障害種別の特別学校に振り分けられ、一般教育から切り離されてきた歴史があります。　そうした過去を踏まえて、いま「共に学ぶ場」をつくろうとする試みには大きな意味があると感じました。

とはいえ現実は厳しいものです。教員の８割は特別支援の知識が足りないと感じ、７割は子ども一人ひとりに合わせた「個別の学習計画」の作成に苦労しています。長く普通学校で教えてきた教員の中には、インクルーシブの導入にどう向き合えばよいのか、不安を口にする人も少なくありません。制度や法律は整っていても、それを支える人材や学校文化はまだ育ちきれていないのです。

会員　白村　直也

投　稿

ロシア語受講生の声

かけがえのない経験を与えてくれたロシア語

高校生の頃にマクシム・ゴーリキーの小説を読みロシア史に興味を持ったのがロシア語を勉強しようと思ったきっかけでした。大学ではロシア語を勉強した後、就職してから３年のブランクを経て日本ユーラシア協会のロシア語講座（神奈川で４年、愛知で４年）にお世話になっています。

私が大学で在籍したのはロシア関係に特化した学部でなく、自学自習が必要でした。しかしそれを怠ったために論文を読むにも文法があやふやで逐一辞書や教科書を参照してどうにか読んでいるような有様でした。そこで悔いが残ったからか、はたまた良き先生やクラスメートに恵まれたからか、社会人になりロシア語学習を再開してからは大学時代とは比べ物にならないほどの語彙力や表現力を身に着けることができたように思います。

この８年間で色々なことがありました。ロシア極東に４回、ウズベキスタンに１回訪問し、ロシア語で現地の方々とコミュニケーションを取ったこと（そして自分の至らなさを痛感して学習のモチベーションが高まったこと）、ロシア文学の原文に触れ鑑賞することができたこと、そして様々な目的・関心を持つクラスメートの話を聞けたこと・・・そのどれもが私にとってはかけがえのない経験です。そしてロシア語学習継続の大きなモチベーションになっています。

ロシア語の文法を身に着けるのは確かに大変です。しかしその先に、得難い体験があなたを待っています。文法クラスを終えた後には、そこで学習を終えずに、会話クラスやゼミナールに参加することを強くお勧めします。道具を使い手入れしながら手に馴染ませていくように、文法を復習し、クラスメートの話を聞きながら自分の表現力を磨き成長することができるでしょう。勉強を始めるのに遅いことはありません。思い立ったが吉日、一歩踏み出しましょう！

理事　川北厳己

投稿

ロシア式履歴書作成体験記（その11）

日本人として日本社会で暮らしていれば、職務経歴書や履歴書に〝解雇〟の文字があるだけで、どれほど次の就職が困難になるか、社会から疎外されるのではないか、ともすればこれは最早、デメリットどころか日本人としての人生における一大リスクなのだ。

小生、もしも失職したとすればギリギリ40代か50代である。

大学卒の学歴もなければ、職歴は一貫せず、やむを得ず派遣社員扱いだった時代もある。次は長く続けられるよう、心機一転ガンバルゾーーーー！

などとのたまうことができる年齢ではない。

親兄弟の高年齢化に伴って、加速度的に増えている介護や病院代を賄うためにも、なんとしてでも正社員待遇で給与条件のいい職につかなければならない。

しかし、努力と職への献身はいつか必ず報われる、という日本人の当たり前を手放して、〝解雇〟の恐怖やストレスとうまくお付き合いしながら人生のステップを駆け上がることに挑むか、ステップに足を掛けることも諦めるか。

準備不足も計画性の無さも、睡眠不足、面接の緊張さえも吹っ飛ぶほどに、このリスクについて頭を悩ませていたのは言うまでもない。

事務局員　匿名希望

事務所だより

新栄の窓から④

「ユーラシアフェスティバル」のお楽しみコーナーでは、ビンゴゲームをいたします。参加者みんなで、飛び出る数字と番号カードの窓開けを楽しみましょう。

景品を募ります。

ユーラシア関連大歓迎・クリスマス関連大歓迎。そしてあなたがもらってうれしい物、大歓迎です。

事務所に12月5日までにご持参ください。

常任理事・事務局員　本多まゆみ